

米中競合は世界をどう変えるのか

東京大学大学院教授 藤原 帰一

- *米中競合時代の始まり
- *揺れた米国の対中政策
- *中国抑止戦略への転換
- *大国中国の承認欲求
- *習近平が唱える三つの世界論
- *対中強硬策の有効性
- *夢遊病者の戦争
- *人権外交の限界
- *ウクライナを巡る中国のスタンス
- *岸田・林外交の選択肢



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

皆様、明けましておめでとうございます。今年またコロナのいろいろな悪い情報が出回っておりますけれども、社会が落ち着いて、皆様にフリーにここに入っていただけの日がさらに長くなるように願っております。

本年も、年明けの第一回は藤原先生においていただきました。改めてご紹介の必要もないかもしれませんが、1956年のお生まれで、東京大学の大学院からイェール大学に留学され、帰国されて以降、千葉大学を経て東京大学で教鞭を取っておられます。石橋湛山賞を取られたこともございまして、ここに銅像が建っております。三浦鍔太郎という石橋の前の社長の縁戚でございますので、ここにはたいへん縁の深い

方だと思っております。

いつも世界の情勢についての確なお話をしていただくということで、今年の世界の情勢を見極めるためにたいへん有益なお話を今日も伺えると思います。

それではよろしく願いたします。（拍手）

米中競合時代の始まり

藤原 皆さんこんにちは。藤原帰一でございます。毎年年初にお話をする機会をいただいております。これまでも年初に映画のお話をする時代が来ることを願っていたのですが、何分にも国際関係はいろいろな問題がたくさんございまして、のんびり映画をご紹介する状況ではありません。今年もその例のとおり、